

4 アレルギー科フェロー研修要綱

指導責任者 高里 良宏

当科では、「基礎・臨床・社会」の3本柱に立脚して、アレルギー疾患の診療、研究、社会活動に取り組んでいます。病院内での診療に留まらず、基礎医学から社会的な問題まで、広い視野を持ったアレルギー専門医の養成を目指しています。

- ・ <基礎>基礎免疫学、臨床アレルギー学はもちろん、栄養学・食品化学など、医学以外の専門家ともつながりが多くあり、幅広い分野での研修が可能です。
- ・ <臨床>食物アレルギー、アナフィラキシー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、薬剤アレルギー、消化管アレルギーなど小児アレルギー疾患全般にわたる診療を行っています。なかでも食物アレルギーに対する経口負荷試験と経口免疫療法に力を入れ、多くの重症患者を治療しています。研修の際には、負荷試験の担当や免疫療法の主治医も担当していただきます。
- ・ <社会>園、学校、保健、行政、患者団体などと共同して、社会的なアレルギー対応レベルの向上に寄与する役割は重要です。アレルギー支援ネットワークを通じた、アレルギー対応のための講座を任される機会も多くあります。研修を通して、社会的な活動を支えられる専門医を養成したいと考えています。

1. 活動実績 (2021 年度)

常勤医	5名 (日本アレルギー学会指導医3名)
フェロー	7名
外来延べ患者数	8147名/年
入院患者数	延べ1454名/年
施設認定	日本アレルギー学会認定教育施設 愛知県アレルギー疾患医療拠点病院
学会発表	37演題
誌上発表	29報 (英文11報)
研修期間	原則2年ですが、1年から3年まで相談に応じます。

2. 主な診療内容と特徴 (2021 年度)

食物アレルギー

食物経口負荷試験：1346件

[日帰り入院負荷1192件、外来負荷154件]

食物経口摂取後の運動誘発試験 101件

入院経口免疫療法：4例 外来経口免疫療法：常時多数

気管支喘息

呼吸機能検査、可逆性試験、運動誘発試験、気道過敏性試験
各吸入デバイスに応じた吸入指導（薬剤師との連携）
重症喘息児に対する生物学的製剤導入
喘息入院加療（急性期）

アトピー性皮膚炎

重症例に対する 1-4 週間の入院治療、スキンケア指導入院（3 件）
外来看護師（小児アレルギーエデュケーター）によるスキンケア指導
精神的、社会的問題（虐待）を抱えた症例は、保健センターと共同で診療。

アレルギー性鼻炎

アレルギー特異的免疫療法【皮下免疫療法、舌下免疫療法】

薬剤アレルギー

リンパ球刺激試験、皮膚テスト（プリックテスト、皮内テスト、パッチテスト）
薬剤誘発試験（2 件）

好酸球性胃腸炎

重症例に対する入院治療、感染免疫科医師による内視鏡検査

3. 研修内容

・ 外来

2年次以降に外来主治医として、新患・免疫療法実施症例を継続的にフォローします。

・ 病棟

1年次を中心に食物経口負荷試験と経口免疫療法の導入指導を担当します。入院患者は担当医+回診当番制で、毎日症例カンファレンスを行って診療します。

・ 研究

臨床研究の立案からデータ解析・発表・論文執筆まで、意欲に応じて指導します。

学会発表（年1回以上）、論文執筆（1報）を目標とします。

名古屋学芸大学管理栄養学科、藤田医科大学、国立病院機構三重病院、京都大学、国立病院機構相模原病院など幅広い共同研究施設と、多くのテーマで臨床研究を進めています。

名古屋大学関連病院や、東海地区の各種アレルギー研究会による多施設共同研究も立案して、実施するチャンスがあります。

当センターは、名古屋大学連携大学院、横浜市立大学連携大学院にも指定されていますので、学位取得を目指したい方はご相談ください。

- ・ カンファレンス・抄読会

毎朝 30分 入院患者のミーティング等

毎週月・金曜夕方 抄読会・症例検討会・各種研究の打合せ・学会予演会

- ・ 愛知県では、小児アレルギー関連の研究会が多数あり、それぞれ定期的に講演会を開催しています。全国トップレベルの講師（臨床・基礎とも）の話が身近に聞けると共に、そうした場で発表する機会も豊富です。

- ・ 市民・専門家向け啓発活動

一般市民や患者・保健・教育・栄養関係の専門家を対象とした講演会に講師として参加、アレルギー相談会など様々な社会啓発活動に参加し、アレルギーの社会的な諸問題に触れる機会があります。

4. 主な研究テーマ

- ・ 食物アレルギー児に対する緩徐微量経口免疫療法の検討
- ・ 鶏卵、牛乳、小麦アレルギー児に対する同時緩徐微量経口免疫療法の検討
- ・ 食物アレルギーに対する急速経口免疫療法に関する研究
- ・ 運動により誘発される即時型アレルギー症状の予後と予後に関連する因子の検討
- ・ 経口免疫療法に対する患児の自己決定支援に関する研究
- ・ 食物アレルギー児に対する入院緩徐微量経口免疫療法の検討
- ・ 乳幼児健診における食物アレルギー発症ハイリスク児の同定と適切な医療機関受診勧奨による発症予防効果の検証
- ・ 新生児・乳児消化管アレルギーと腸内菌叢（細菌+真菌）の関連
- ・ アレルギー疾患に対する定期内服薬が食物経口負荷試験結果に与える影響に関する研究

5. 関連団体

認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク

2024年11月2～3日、第61回日本小児アレルギー学会を主催します。学会運営にもご協力いただき、全国から集まる先生たちと知り合うチャンスにもなります。

2022 年に発刊したセンターの 20 周年記念誌「子どもたちの未来のためにできること」
の中でも科の特色を説明していますので、是非ご覧ください。

② <https://achmc-book.pref.aichi.jp/article-02/>

② <https://achmc-book.pref.aichi.jp/article-10/>